

# 令和 4 年 度 学 校 経 営 計 画

## 1 学校教育目標

校訓「自立 共生 信愛」を指針として、自主的精神と創造的活力に満ち、思いやりの心をもつ個性豊かでたくましい人間の育成を目指す。

「自立」……社会人としてたくましく育つこと

「共生」……多様な人々の中で調和のある社会を築き上げていくこと

「信愛」……豊かな心を育て、互いに敬愛しあう人間関係を形成すること

## 2 学校の特徴

本校は、定時制単位制でかつ通信制科目も受講できる高校で、普通科（昼間Ⅰ部、昼間Ⅱ部、夜間）と福祉教養科（昼間Ⅰ部）を設置している。加えて、県民カレッジ新川地区センターを併設し、地域の生涯学習の拠点としての役割も担っている。

昼間Ⅰ部、昼間Ⅱ部、夜間の枠を越えた幅広く柔軟な受講選択が可能であり、多彩な科目の中から、生徒は各自の進路目標に合わせた時間割をつくることができる。

多様化する生徒への対応として、習熟度別講座や基礎から発展までの様々な科目の開講、少人数での授業や個別指導、個別の支援計画作成等、生徒一人一人の進路の実現に向けた支援を行っている。

福祉教養科では、介護職員初任者研修の130時間に相当する講座を平成26年度から開講した結果、昨年度まで13名の修了者があった。

部活動では、運動部は毎年のように北信越大会や全国大会に出場しており、文化部は年2回の校内発表を行っている。また、ボランティア活動や校外体験学習も重要な学習と位置づけ、特別養護老人ホームと協力した里孫活動や全校生徒で行う地域環境美化活動等の活動を通して地域に貢献し、地域で育まれる学校を目指している。

さらに県民カレッジ新川地区センターの併設を生かし、高校生が社会人と共に学ぶことにより、大人ひいては地域と関わりながら、共生の心の涵養に努めている。

## 3 学校の現状と課題

近年、不登校を経験したことのある生徒や様々な悩みや問題を抱えている生徒が増加しているため、スクールカウンセラー3名とスクールソーシャルワーカー1名が配置されている。また、平成24年度に文部科学省の特別支援教育総合推進事業の指定校として実践・研究を行って以来、ソーシャルスキルの育成及びキャリア教育の実践を進めているほか、平成30年度後期から自立活動の「通級」が導入され、ソーシャルスキルやコミュニケーション能力の向上を目指した講座「サポートスタディ」を開設している。関係教員を中心として、サポートスタディの指導内容について模索しているところである。

進路指導では、従来の指導に加え、多様な生徒の就労に対応するために、入学当初から関係機関とも連携しながら支援をより充実させる取り組みを行っている。現在は支援へのシステムづくりを構築しているところである。

学力差の拡大も大きな問題で、数学と英語は習熟度別授業を実施している。また、少人数での授業や学び直しのための学校設定科目「数学入門」などをも実施しており、今後、このような試みをより広げていく必要がある。

#### 4 学校教育計画

項目		目標・方針及び計画	
1	学習活動 (教育課程)	目標	○スクールポリシーに基づき、多様な生徒の実態に対応した教育課程を編成する。
		計画	○生徒の実態に即した指導ができるよう、習熟度別の講座を開設する。 ○生徒の理解を深めさせるために、科目によっては少人数制を展開する。 ○義務教育段階での学習内容の確実な定着を図るために、学校設定科目を開設する。 ○個々の生徒の進路希望・興味・関心などに対応した受講登録ができるよう多様な教科・科目を開設する。 ○福祉教養科では、家庭や福祉に関する専門的な知識や技能の習得を目指し、多くの専門科目を開設する。
2	学習活動 (学習指導)  重点1	目標	○生徒の実態に即した適切な指導と授業改善により、学習意欲や講座出席率の向上を図る。
		計画	○ <b>一人一人の生活環境、学習歴、学力、適性、進路希望などを考慮した適切な受講指導を行い、生徒の実態に即した学習指導を進める。</b> ○生徒の出席状況や学習状況について教員間で情報を共有するとともに、保護者との連絡を図りながら、生徒の講座への出席率を高めていく。 ○ <b>指導方法や指導体制の工夫改善</b> のために、互見授業を実施したり、ICTやデジタル教科書等を活用した授業を推進したりする。
3	学習活動 (福祉教養科)  重点2	目標	○社会福祉に興味・関心を持たせ、基礎的な知識や思考・技能を習得させ思いやりの心を育む。
		計画	○福祉の基本となる生活態度について到達目標を設定させ、自己評価を行う。 ○ <b>福祉施設における福祉体験や学習を通して、知識や思考・技能を身に付けさせ、専門性を深める。</b> ○介護職員初任者研修課程やボランティア活動を通して、福祉に対する関心や意欲を高める。 ○専門職の外部講師による授業や福祉出前講座、福祉教養科の行事や活動を多く取り入れ、 <b>福祉マインドを育成する。</b>
4	学習活動 (生涯学習)	目標	○併設されている県民カレッジ新川地区センターとの共学講座で、一般受講者と学ぶ機会を活用し、生涯学び続ける力を育む。 ○県民カレッジ新川地区センターとの学習機会や行事等を活用し、地域の人々と協働的に学び、実社会の課題を解決する資質を育成する。
		計画	○共学講座で、高校生と一般受講者が同じ学習の場で互いに刺激しあい、高めあえる学習環境を整える。 ○新川キャンパスフェスティバルや共学講座など、地域での発表機会を充実させる。
5	学校生活 (生徒指導)  重点3	目標	○基本的な生活習慣を培うとともに、互いに敬愛し合う人間関係を構築し、全人的な人間形成を目指す。
		計画	○ <b>基本的な生活習慣として「あいさつの推進」「場に応じた言葉遣い」「入退室マナー」「身だしなみ基準の遵守」を重点項目として掲げ、ルールやマナーを学び、遵守する力を育成する。</b> ○生徒理解に努める。面接月間を設定し、ゆとりをもって面接ができる体制を充実させる。 ○不登校や長期欠席の生徒に対して、保護者と連携を取りながら、適切に家庭訪問を行い、生徒の理解・支援に努める。 ○講話等を通してスマートフォンの安全な利用、交通安全、薬物乱用防止への意識を高める。 ○全校集会等を通して、命の大切さなどの気運を醸成する。

項目		目標・方針及び計画	
6	学校生活 (保健指導) 重点4	目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>○生徒の自己健康管理能力を育むとともに、健康で快適な学校生活のための学習環境の整備に努める。</li> <li>○悩みや不安を抱えている生徒、特別な支援を要する生徒への共通理解を図り、生徒の社会的自立や自己実現に向けた指導や支援を目指す。</li> </ul>
		計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>○<b>生徒の健康で充実した学校生活のために、定期健康診断や生活習慣チェックを実施し、必要に応じて健康相談を行う。</b>「治療カード」「ほけんだより」により啓発する。</li> <li>○地域環境美化活動や毎日の清掃を全員で行い、環境美化の意識付けを図るとともに、ゴミの分別と減量を進める。</li> <li>○スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーとの面談やケース会議等をもとに生徒への共通理解を深め、家庭や県の相談機関・外部の医療機関との連携を図り、適切な支援を行う。</li> </ul>
7	進路支援 (進路指導) 重点5	目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>○生徒の実態を考慮し、個に応じた進学・就職等を支援する。</li> </ul>
		計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>○生徒が個々の適性に応じた目標に向かって、積極的に取り組み、進路実現できるように支援する。</li> <li>○キャリア教育の一環として、「進路のてびき」を利用し、<b>「ステップアップカリキュラム」、「キャリア支援講座」等を通し、1年次から生徒の進路目標を系統的に育成</b>する。</li> <li>○キャリアパスポートの作成を充実させる。</li> </ul>
8	特別活動	目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>○生徒会活動、ホームルーム活動、学校行事やボランティア活動、部活動等の、様々な活動に自主的、実践的に取り組み、互いのよさや可能性を発揮しながら集団や自己の生活上の課題を解決しようとする態度を育てる。</li> </ul>
		計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>○生徒会活動、ホームルーム活動、学校行事、部活動では、生徒の実態や要望に応じながら、生徒が自主的、実践的に取り組めるよう工夫する。</li> <li>○ボランティア活動等の情報を適切に提供し、積極的な参加を促す。また、事前・事後指導を徹底する。</li> <li>○生徒の実態、要望に応じた部活動の運営が行えるよう工夫すると共に、年間を通して発表の機会を提供する。</li> <li>○生徒会が主体となって取り組む諸活動が、成功体験につながり、充実感、達成感を得ることができるよう援助、指導する。</li> </ul>
9	図書指導	目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>○図書委員会活動を活発化し、読書に対する興味・関心を高める。</li> <li>○図書館の利用指導を通し、健全な読書活動の推進を図る。</li> </ul>
		計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>○昼休み・放課後のカウンター当番を通して、図書委員としての自覚を高め、図書委員会の活発な活動を推進する。</li> <li>○生徒の読書傾向やニーズの把握に努める。</li> <li>○図書だより・図書館報の発行、生徒図書選定、教養講座等を行う。</li> </ul>
10	PTA活動	目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学校と家庭との緊密な連携のもと、PTA活動の活性化を図る。</li> </ul>
		計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ホームページにPTA活動の様子などを更新・掲載する。</li> <li>○ホームページや学校教育安全メール等を利用して会員への連絡を徹底する。</li> <li>○PTAだよりを充実させる。</li> <li>○PTA講演会、学校開放WEEK等の保護者の来校機会を多く設定する。</li> <li>○積極的なPTA活動への参加を呼びかける。</li> </ul>

## 5 今年度の重点課題（学校アクションプラン）

令和4年度 新川みどり野高等学校アクションプラン - 1 -	
重点項目	学習活動（学習指導）
重点課題	生徒の実態把握による適切な受講登録とわかる授業の確立
現 状	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本校には不登校経験者が多く、基礎学力が定着していない生徒がいる。</li> <li>・様々な理由から、転入学生や編入学生が多くいる。</li> <li>・進路希望は就職希望から四年制大学への進学まで多岐にわたる。</li> <li>・学習への目的意識に乏しく、安易な欠席や遅刻が見受けられる。</li> <li>・互見授業等の校内研修を実施しているが、生徒へのフィードバックに課題が残る。</li> </ul>
達成目標	講座出席率と単位修得率
	講座出席率85%以上 単位修得率85%以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・不登校生徒や学習習慣が身に付いていない生徒が授業に参加できるように、学校全体で学習の支援にあたる。</li> <li>・多様な生徒のニーズに応じた、弾力的な教育課程の編成に努める。</li> <li>・HRや面談を通じ、一人一人の目的に沿った無理のない受講登録を勧める。</li> <li>・生徒、教員（担任・授業担当者）、保護者との連携をとっていく。</li> <li>・ICT機器利用の推進を図り、タブレット等を活用した教材開発に努める。</li> <li>・教科内や教科を横断して学習活動や指導方法の工夫を図り、生徒が主体的に参加できるように、わかる授業の実践に努める。</li> </ul>

（評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった。）

令和4年度 新川みどり野高等学校アクションプラン - 2 -	
重点項目	学習活動（福祉教養科）
重点課題	社会福祉に対する興味・関心の向上と基本的知識・技能の習得、及び思いやりの心の育成
現 状	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1年次生から実習・体験、専門家による講義等を計画的に取り入れ、福祉に対する興味・関心を高めながら、福祉マインド（思いやりの心・自主性・協調性）を育成している。</li> <li>・今年度の介護職員初任者研修の受講生は0名(対象生徒2名中)である。</li> <li>・福祉を学び、昨年度卒業後に福祉系へ進んだ生徒は3名(4名中)であった。</li> </ul>
達成目標	①「学校生活・福祉についての自己評価表」で各項目が向上した生徒の割合（現状維持を含める）
	②里孫活動への参加率（校内外活動を含む）
	①80%以上 ②80%以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的生活を確立した学校生活を送るために定期的に担任との面談を行う。</li> <li>・生徒の個々の福祉マインド（思いやりの心、自主性、協調性）の育成を図るために、授業をはじめ体験学習や取り組み、里孫等のボランティア活動等を積極的に行い、知識や技能、態度を身につけ、専門性を深めるとともに、自らが福祉を学ぶ意義について考えさせる機会を設ける。</li> <li>・1年次生から介護職員初任者研修の資格取得に向けた働きかけを行う。</li> <li>・前期と後期に生徒の自己評価表を用いた調査を見直し、実施する。</li> </ul>

（評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった。）

令和4年度 新川みどり野高等学校アクションプラン - 3 -

重点項目	学校生活（生徒指導）
重点課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ルールやマナーを意識した学校生活</li> <li>・日常的にあいさつを交わす学校生活</li> </ul>
現 状	<ul style="list-style-type: none"> <li>・お互いに気持ちの良いあいさつができない生徒が多い。</li> <li>・場や状況に応じた言葉遣いが苦手な生徒がいる。</li> <li>・スマートフォンなどの利用マナーが悪い。</li> <li>・衣服の着こなしなどがルーズになる生徒がいる。</li> <li>・周囲への気配りができず自分本意の言動をする生徒がいる。</li> </ul>
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校ネットワークルールの見直しを生徒主体で行う</li> <li>・学校内に気持ちよくあいさつを交わせる友人をつくる（100%）</li> </ul>
方 策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員の共通理解を深める。</li> <li>・生活委員会の活動活性化（執行部や他委員会との連携）</li> <li>・生徒会執行部、生活委員会、代議員会を利用し、学校ネットワークルールについて考えさせる。（生徒主体）</li> <li>・身だしなみ基準の周知活動（生徒主体）</li> <li>・毎日のあいさつ活動の設定（8:50～8:55 フレッシュタイム）</li> </ul>

（評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった。）

令和4年度 新川みどり野高等学校アクションプラン - 4 -

重点項目	学校生活（保健指導）
重点課題	睡眠状況の見直しと改善
現 状	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度実施した睡眠アンケートから「不眠症の疑いがある」となった生徒が40%おり、一昨年よりも5%増加した。登校しても体調不良を訴える生徒の中には睡眠不足が不調の原因という自覚がある生徒もおり「改善したいが、どうしたら良いか分からない。」という意見もある。また、本校生徒のメディア利用の平均時間が約5時間ということが分かった。メディア利用の時間が長い生徒ほど就寝時刻が遅く、睡眠時間が短い傾向にあることが判明した。生徒の健康を考える上で、生徒自身が睡眠の重要性を知り、自ら生活習慣を改善しようという意識を向上させ、心身の健康増進に繋げていく態度を育成していく必要がある。</li> </ul>
達成目標	睡眠状況を改善できたという生徒の割合が80%以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・HR等で睡眠不足が与える心身への影響についての保健指導を行い、自分の睡眠状況を振り返ると共に、現状に応じた個々の目標を立てさせる。また、定期的に振り返りを行い、目標を意識付けできるよう関わる。</li> <li>・ほけんだよりや校内掲示物にて長時間のメディア利用が心身に及ぼす影響と共に、良い利用の仕方について知らせる。</li> <li>・生徒保健厚生委員や学校保健委員会を利用し、本校生徒の実態とより良いメディアとの関わり方について調査・発表する機会を設ける。家庭の意識を高め連携を図るために、保護者の出席も呼びかける。</li> <li>・チェック表等を記入させ、睡眠時間やメディア利用時間を一人一人に意識させる。</li> <li>・睡眠障害が疑われる生徒には、個別指導を行う。</li> </ul>

（評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった。）

重点項目	進路支援（進路指導）
重点課題	生徒が主体的にキャリア教育のステップアップを目指しながら、目標に向かって実践できる進路指導（支援）体制を構築する
現 状	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒はステップアップカリキュラムを意識する機会が少ない。</li> <li>・自らの課題を克服するための具体的な方法を、生徒は自分で見つけることが難しい。</li> <li>・日頃の学校生活や行事の参加において、生徒によっては目標が的確ではない（又は目標に対する意識が低い）場合がある。</li> </ul>
達成目標	生徒が的確に自己理解し、自らの課題について主体的に克服しながら進路実現を図ることができるよう支援体制の充実・改善を行う。
方 策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒が自分のステップアップの状況を把握する機会を定期的に設ける。</li> <li>・自らの課題について主体的に克服できるよう、関係する分掌、年次、スクールカウンセラー等と連携しながら学校全体で取り組む。</li> <li>・学期や行事毎にキャリアパスポートの作成に取り組むことで、生徒が主体的に自己の課題を克服するために、的確な目標を定められるようにする。</li> </ul>

（評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった。）